

切りバラの鮮度保持における前処理剤の効果

農業総合センタ - 園芸研究所

切り花では長く観賞してもらうために、鮮度保持剤の使用が提唱されています。大きく分類すると、生産者段階で使用する前処理剤、小売店や消費者が使用する後処理剤に分けられます。切りバラの観賞期間(日持ち)をできるだけ長くし、十分開花させるためには前処理剤を効果的に使いましょう。

前処理剤の日持ち延長効果

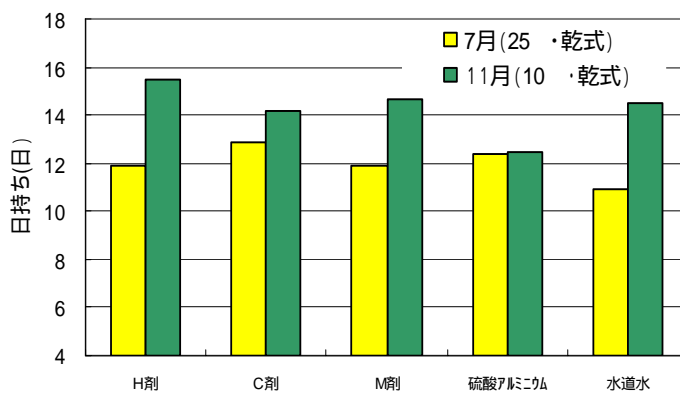
前処理剤は、高温期の乾式輸送に使用すると、日持ち延長効果がみられ、水道水に比べて2日程度日持ちが延長します。ただし、気温の低い冬季の乾式輸送では全体的に日持ちが良く、前処理剤の日持ち延長効果はみられません。



後処理剤のみ



前処理剤 + 後処理剤



乾式輸送における前処理剤の効果

十分開花させるためにも

後処理剤の使用でも、2～4日程度日持ちが延長します。しかし、つぼみの硬い段階で収穫すると、後処理剤の使用だけでは十分開花せずに終わってしまいます。十分咲ききるためには前処理剤の使用が効果的です。

前処理剤使用の注意事項

前処理剤は糖や殺菌剤を主成分としており、切りバラの水揚げを促進します。採花後はできるだけ早く、5～10℃の低温下で前処理剤を処理すると効果的です。使用する際は清潔な容器を使用し、希釈は表示の指示に従いましょう。